

旅で出会った怖かったこと、困ったこと

2022年5月11日 太田隆次

旅は楽しいですね。でも誰でも一度や二度は怖かったことや困ったことがあると思います。思い出すまま書いて見ます。

海の旅で怖かったこと

- ・北海道知床半島の遊覧船は乗りましたが：

20年ほど前、道東を家内と車でドライブしたことがあります。

海から見る知床半島の崖は素晴らしかったです。勿論、今回の事故の会社も船も船長も違いますが、揺れ出した時、「皆様には大人は1000万円、子供さんは500万円の保険が掛かっておりますのでご安心ください」と船長の笑い声での案内放送がありました。笑うに笑えず、少し気分が悪くなりました。

今度の船は何度も座礁したり船体をこすったりの事故を起こしているとのこと
です。

対策：安い料金に惹かれても小規模業者の小さい船は避けることです。

- ・磯釣りは楽しいですが：

週末に船で島に渡る磯釣りは楽しいです。ある時6人の仲間と室戸岬で天気予報に反して船が出る直前に暴風雨に見舞われて港で立ち往生したことがあります。

仲間の1人が顔面蒼白なのに気がついて声を掛けたら「実は私は泳げないんです」というので中止と即決して帰りました。

対策：泳げない人は誘わないことと、悪天候では中止すべきです。

泳げても釣り支度の重装備では救命具があっても船や岸辺に戻ることは難しいからです。

空の旅で怖かったこと

40代の頃、シンガポール出張からの帰りに、JALでノンストップで日本に飛ぶチケットを見せたら現地人社員が「このチケットで香港で降り「マンダリンホテルで食事無料で一泊して帰るJAL便があるのでそれに変更したらというのでそうしました。所が沖縄上空で突然エンジン音が聞こえなるほど静かになりこのまま墜落するのだと、一瞬これまでと観念しました。その時の恐怖感は今でもありありと覚えています。

群馬県上野村上空での日航機墜落は尾翼の不安定が原因で、ダッチロールという揺れが生じたからと後日大々的に発表がありました。はじめてわかったことらしいです。

対策：その対策は終わりましたが、一日も早く墜落事故対策が進み100%なくなって欲しいものです、

山の旅で怖かったこと

・私は46歳の時、高校2年生の息子を連れて1980年8月15日に吉田口からの富士山頂を目指していました。所が途中で「富士山頂上近くで落石事故があり、登山を目指す人はバスで吉田口から須走口に行きそこから登山して欲しい」ということでした。もし私達の出発がもう2日早ければ私達も事故に巻き込まれていたでしょう。

下はその記事です。

富士山大規模落石事故とは、1980年8月14日午後1時50分ごろに富士山の山頂付近で落石が発生、吉田ルートの登山道を転がった落石が八合目から六合目にかけて多数の登山者を巻き込んだ事故である。この事故による死者12人、負傷者は29人を数え、国内の落石事故史上最悪の惨事となった。ウィキペディア発生日：1980年8月14日

マイカーの旅で怖かったこと

多くの皆さんと同様、私の人生もマイカーなしでは語れません。

小さい事故はさておいて、生命に関わるようなトラブルは二つあります。

その一は40歳の頃、出張を終え、小雨模様の深夜に白馬山麓の照明灯のない舗装していない一車線の急坂の繰り返しの山道を走っていた時のことです。所が途中で突然エンストで立ち往生してしまいました。電気系統が切れたらしくエンジンは勿論、照明も切れ全くの暗闇で民家もなく携帯電話もまだない時代です。備え付けの懐中電灯で回りを照らすと小動物の目玉が光ります。車を置いて歩くわけにもいかないので、しばらく気を静めました。

その時、ヒューズが飛んだのかな、と閃いてヒューズ箱を開けると案の定、2本飛んでいました。早速、スペアと取り換え万事OK、あとはルンルン気分で帰りました。

その二は、反対車線でしたが日本坂トンネル火災事故に遭遇したことです。

私は1979年7月11日夕方、出張帰りで静岡県東名高速道路の日本坂トンネル上り線を走って横浜に帰る途中でした。

トンネルを過ぎて、何となくバックミラーを見たらあれだけ混んでいたのに後続車がチラホラしか見えません。反対方向の下り線でまさか大事故で上り線も通行禁止になったのでしょうか。

記事

日本坂トンネル火災事故（にほんざかトンネルかさいじこ）とは、1979年（昭和54年）7月11日18時40分ごろ、東名高速道路の日本坂トンネル下り線で発生した多重衝突事故を原因とした車両火災事故である。衝突事故の被害者のうち4名が即死、3名が車両から脱出できずに焼死し、2名が負傷した。合計173台の車両がトンネル内で火災に巻き込まれて焼失し鎮火までに約65時間を要するなど大きな被害を出した。